

エヴァンゲリウム・カントライ

Evangeliums-Kantorei

〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭 5529-8 シャルマンコーポ 404 小山方

Tel. 070-2834-4304

郵便振替 00100-3-21060

「新しい歌を主に歌え」

彼らは御座の前と、四つの生き物および長老たちの前で、新しい歌を歌った。しかし、地上から贖われた十四万四千人のほかは、この歌を学ぶことができなかった。

ヨハネの黙示録14章3節 (聖書 新改訳2017 ©2017 新日本聖書刊行会)

菅野 淳一

音楽に疎く楽譜も読めない小生がこの巻頭言を書いているのかわかりませんが、それでも神に献げる賛美について教えられたことを分かち合えればと願っています。

上記の聖句は、使徒ヨハネが流刑先で子羊キリストから黙示を受けた幻でした。それは、シオンの山の上に子羊と十四万四千人が立っていました(1節)。この十四万四千人は、そこに「地上から贖われた」とありますように、子羊の血によって贖い出されたクリスチャンたちでした。この数字は象徴でおそらくイスラエル12部族の「12」を二乗し、千倍した完全数と思われます。つまり、子羊の贖いによって救われた全教会を表しています。

ヨハネは、そこで、「天からの声」(2節)を聞きました。その声は、「大水のとどろきのようであり、激しい雷鳴のようでもあった。」(2節)とあり、周辺の音一切を打ち消してしまうほどの大きな音でありました。しかし、それは耳を塞いでしまうような爆音ではなく、聞き入ってしまう賛美の歌声です。そこには「豎琴に合わせて歌う声のようであった」(2節)とあります。ここの「歌う声」は、「歌う」が複数形で「声」が単数形です。つまり、大勢の人たちの歌声が一つとなっています。これは、ユニゾンで歌われていたのでしょうか。それとも、ハーモニーとなっていたのでしょうか。いずれにしても一糸乱れず1つの声となっていたのです。

この天からの声は、一体だれの声なのでしょう。それは、先に見た「十四万四千人」の歌声であり、全教会の賛美です。それは、地上にある大ホールに収まることはできません。そこに「彼らは御座の前で…」とありますので、天上の礼拝での賛美でした。それは壮大なスケールで、ヨハネも聞き惚れていたのでしょうか。

ここで、全教会が歌ったのは「新しい歌」でした。それも、「地上から贖われた十四万四千人のほかは、この歌を学ぶことができなかった。」というのです。つまり、この「新しい歌」は、特別です。だれもが学ぶことのできる歌ではありません。もち

ろん、この世の歌でもありません。この「新しい/カインス」は、時間的な新しさではなく、刷新、更新といった本質的にいつも新鮮さを保っていることを意味しています。

では、全教会はこの「新しい歌」を誰から学んだのでしょうか。それは、そこにいた「四つの生き物および長老たち」です。この方々は、ヨハネの黙示録5章9、10節で、「新しい歌」をすでに歌っていました。

「彼らは新しい歌を歌った。

『あなたは、巻物を受け取り、封印を解くのにふさわしい方です。

あなたは屠られて、

すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなたの血によって人々を神のために贖い、私たちの神のために、彼らを王国とし、祭司とされました。

彼らは地を治めるのです。』」

「四つの生き物および長老たち」は、子羊の前にひれ伏して「あなた(子羊)は、屠られ、…あなた(子羊)の血によって人々を神のために贖い出された」と歌っていました。そして、この「新しい歌」を特別に学び得て、その次に歌ったのは、子羊の血によって贖い出された当人たちである全教会でありました。先に「地上から贖われた十四万四千人のほかは、この歌を学ぶことができなかった。」とありましたが、それは当然です。全教会は、「四つの生き物および長老たち」から学んだかもしれないが、それ以上に全教会だけが子羊の贖いを体験し、全身で理解し、学び得たのです。それゆえに彼らは、自分の内側から、いつも新鮮な喜びをもって子羊をたたえることができたのです。

私たちも、いずれ子羊の前で「新しい歌」を賛美する本番の時を迎えます。それまで日々のクリスチャン生活の中で子羊の血による贖い出された恵みがどれほど尊いものであるのかを全身で学び、整えられるものでありたいと願います。

(湘南ライフタウンキリスト教会 牧師)

《バッハ の待降・降臨節楽曲『光と闇』》

斉藤律子

光は闇の中で輝いている。闇は光に勝たなかった。ヨハネ 1:5

(日本聖書協会共同訳 2018)

私はプロテスタント教会音楽の真髄にカントライで出会い、今も奉仕を続けています。これは全て主から与えられた大きな恵みであり宝です。音楽の道という漠然としたものであったなら続かなかったと思うのです。芸術全般に興味はありますが、音楽の次に好きなのが美術です。美術の歴史は音楽の少し先を歩んでいて、その時代を象徴するスタイルや流行は音楽の流行と密接に結び付いています。大学時代には2年間美術史の授業をとりました。それは音楽史を考える上でとても役に立っていると思うのです。今はコロナ禍で美術館めぐりもできません。仕方なくネット配信されている美術講座を見えています。

バロック様式絵画の回で、その時代を代表する特徴として《キアロスクーロ》という言葉が出てきました。ご存知の方もいらっしゃると思います。イタリア語でキアロ(chiaro 明るい、晴れた) スクーロ(scuro 暗い、闇) という意味が連結した言葉で、明暗の強さを表しています。16世紀後半のイタリアから始まり北ヨーロッパに広がっていった絵画様式です。ルネッサンスの代表的なラファエロやダ・ビンチの絵画は全体に満遍なく光が当たっております。色彩も豊かです。輪郭や構図も円形や流麗な線が基本に見られ、自然な美しさを感じます。それに対してバロック絵画の代表としてレンブラントを思い出してみてください。光が当たっている人物とその周りの黒さは際立っています。ドラマチックな物語や演出を感じます。このコントラストがキアロスクーロです。それは音楽におけるルネッサンスとバロックの違いとマッチしています。私はこれを聞いて即座にバッハの音楽を思い浮かべました。とりわけ待降・降誕の作品はこのコントラストの強さを感じます。讚美歌の「異邦人救うまことの光」「まぶねのかたえに」等、クリスマス曲なのにこの暗さはなぜだろう、と思う作品がクリスマスのカンタータにも少なくありません。『クリスマス・オラトリオ』の冒頭も、ティンパニーが鳴り響き、華やかなファンファーレのようなトラッペット3本と共に弦楽器や管楽器のメリスマが喜びを奏でる中「歓声を上げよ、喜び歌え! 支配者を崇めよ!」と歓喜の合唱が三拍子で力強く賛美した後、ルカ2章1～6節(イエス様降誕の箇所)が朗唱され、次にアルトの朗唱とアリアが地上の民に、「シオンよ備えなさい、急ぎなさい、花婿が来ます!」と告げます。アリアのオブリガード楽器は3本のトランペットから一気にオーボエです。オーボエは嘆きや悲しみに使われることが多い楽器です。調性も第1曲のニ長調(キリストの栄光)の調からイ短調(地上への遜り)の調です。次の讚美歌の合唱はなんと「血しおしたたる」のメロディーです。マタイ受難曲を思い出させるものです。高みから一気に急降下するこのコントラストがとてもバロッキ的ではないでしょうか。罪の世の暗さと、待ち受ける十字架苦しみの中に生まれてこられた独り子の栄光の光をバッハはクリスマスの楽曲の中に際立たせています。その手法は楽器の編成、リズムや拍子、舞曲、調性、音程や音型、ハーモニー、井やト、数字などを細かく綿密に組み合わせて、しかしながら大胆に聖書や歌詞を表現しています。絵の具ではなく音符を使って楽譜に描き上げています。

大切なことは暗闇をじっと見つめなければ光の強さや暖かさは見えないと言うことではないでしょうか。クリスマスが近づいています。私はまず、自身の罪と向き合い、独り子の栄光の光に預かるために、まぶねのかたえに立たせていただきたいと祈っています。

《バッハのコラール前奏曲「いざ来ませ、異邦人の救い主よ」における音楽言語について》

矢吹綾子

アドベントの賛美歌「いざ来ませ、異邦人の救い主よ」（譜例1）は、アンブロシウスのラテン語の賛歌を、ルターがドイツ語に翻訳した5節からなる賛美歌です。バッハの「18曲のライプチヒ・コラール集」には、この賛美歌を基にしたコラール前奏曲が3曲収められています。

第1曲（BWV659）は、この賛美歌の1節の内容を表しています。ペダルが低く動くように8分音符で上行し、下行します。これは、全世界を表しています（譜例2-①）。アルトとテノールの伴奏声部は賛美歌の旋律を模倣し、掛留（タイ）が多く用いられています。これは、救い主の来臨を待ち望むことを表しています（譜例2-②）。定旋律は美しく厳かに装飾されたソプラノに現れます。これは、暗闇のようなこの世界を照らす光を表しているように思われます（譜例2-③）。この曲の途中には、痛みを表す半音を含む、溜息のモチーフが5小節にわたって用いられています。これは、十字架の苦しみを表し、「神はこのような誕生を定められた」という歌詞により、十字架による救いを表しています（譜例3）。

第2曲（BWV660）は、2節と3節の内容を表しています。一つは左手で、もう一つはペダルで弾かれる二つのバスとソプラノの定旋律からなる変わった3声部で作曲されています。この二つのバスは、#のついた変化音による痛々しい音調のカノンで始まり、キリストが父なる神のみこころに従われ、十字架に架かれたことを表しています（譜例4）。また、お互いに模倣しながら、下行する音型が多く、減七の和音の分散和音による下行音型は、キリストが十字架の死にまで従われたこと、地の低いところに降りて来られたことを表しています（譜例5）。

第3曲（BWV661）は、4節と5節の内容を表しています。4節の「汝のまぶねは明るく輝き」という歌詞や、5節の父、子、御霊の神への頌栄を、16分音符の輝かしいモチーフにより表しています。手鍵盤は3声のフーガで、定旋律はペダルに現れます。フーガのテーマは、賛美歌のメロディーから作られ、十字架を表すモチーフと、すべてや完全を表す1オクターブが用いられています。これは、全世界の人々への神の救いの御業の完成を表しています。

クリスマスツリーやリースで街中が彩られ、多くの人々が心躍らせるアドベントの季節、これらの曲は、御子が十字架による救いのためにこの世に来られたクリスマスの本当の意味を心に刻ませてくれます。

譜例1

譜例2

譜例4

譜例3

譜例5

譜例6

♪クリスマスオンラインミニコンサートのお知らせ♪

- 日時 : 2022年12月16日(金)19:30-20:30 ゲスト入室 19:20
- 形態 : Zoomクラウドミーティングによる配信
- 視聴方法: カントライホームページ(掲載中)または、お知り合いの団員からお申込みください。ご連絡を頂いた方に、ZoomのURLをお知らせします。
- プログラム:
 クリスマスに関わりのある賛美となります。
 カントライ理事による奨励、団員による「みことばの歌」「オルガン演奏」など。
 アカペラで行うアットホームなミニコンサートです。皆様のお越しをお待ちしています!

2021年度会計報告

大変、遅くなりましたが
 2021年度の一般会計報告
 をいたします。
 多くの方々のお祈りと
 お支えを感謝申し上げます。
 財政的にも主によって
 守られましたことに感謝
 いたします。

2021年度一般会計報告			2022/3/31
	2021年度予算	2021年度決算	
収入			
献金	200,000	304,152	152.1%
賛助会費(個人)	300,000	215,000	71.7%
賛助会費(教会)	600,000	554,200	92.4%
団費収入	400,000	424,000	106.0%
受取利息	20	15	75.0%
諸会計収入	10,000	0	0.0%
収入合計	1,510,020	1,497,367	99.2%
繰越金	500,000	588,696	117.7%
収入総合計	2,010,020	2,086,063	103.8%
支出			
人件費	1,130,000	1,080,000	95.6%
団員研修費	20,000	0	0.0%
交通費	100,000	0	0.0%
会場費	70,000	0	0.0%
広報費	70,000	57,186	81.7%
通信費	30,000	7,634	25.4%
電話料	30,000	12,340	41.1%
消耗品費	15,000	15,496	103.3%
会議費	3,000	0	0.0%
事務所費	120,000	120,000	100.0%
手数料	30,000	18,811	62.7%
予備費	100,000	0	0.0%
支出合計	1,718,000	1,311,467	76.3%
繰越金	292,020	774,596	265.3%
総合計	2,010,020	2,086,063	103.8%

事務局から

☆ 活動予定

12月16日(金) オンラインクリスマスコンサート

2023年6月3日(土) 前橋キリスト教会演奏会

* 今後の状況によって変更の可能性がありますので、ご確認をお願いいたします。

☆ 献金(2022年9月-11月) ()内の数字は件数です。

尊い献げものをありがとうございました。感謝をもってご報告いたします。(敬称略)

< 賛助会 >

(教会) 前橋キリスト教会(3)、東京聖書教会(3)、浦和福音自由教会(3)、
 長津田キリスト教会、川越聖書教会、北栄キリスト教会(2)
 札幌希望の丘教会

(個人) 飯島勅・千雍子(3)、片山修司、高張美恵子(3)、潮田徹、方波見知子

< 献金 >

(教会) 湘南ライフタウンキリスト教会(3)

(個人) 匿名、団員

編集後記: イエス・キリストのご降誕をお祝い申し上げます。Wishing you a Merry Christmas!!